

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会議名	平成30年度第1回高松市創造都市推進審議会
開催日時	平成30年7月18日(水) 13:00~14:00
開催場所	屋島レクザムフィールド 第2・第3会議室
議 題	(1) 高松市創造都市推進ビジョンの取組状況等について (2) その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	佐々木会長、中副会長、大久保委員、三井委員、香西委員、平野委員、山家委員、井本委員、山崎委員、渡邊委員
事務局	長井創造都市推進局参事、田井経済産業部長、楠競輪場長、永正中央卸売市場長、一原文化・観光・スポーツ部長、西岡産業振興課長、太田立地・創業・イノベーション支援室長、十河農林水産課長補佐、山下土地改良課長、池田地籍調査室長、米井施設整備室長、黒田観光交流課長、吉峰観光エリア振興室長、堀内都市交流室長補佐、次田文化財課長、高本スポーツ振興課長、合田美術館美術課長、佐野産業振興課長補佐、松本産業振興課長補佐、三浦産業振興課係長、松下産業振興課主事
傍聴者	0人 (定員 10人)
担当課及び連絡先	産業振興課 創造産業係 839-2411

審議経過及び審議結果

1 開会

2 議題(1) 高松市創造都市推進ビジョンの取組状況等について

【会長】

それでは事務局から配付資料の説明をお願いしたい。

(事務局から資料説明)

【会長】

ありがとうございました。まず私から発言させていただくと、今年度から「創造都市ネットワーク日本」の幹事団体に就任したという事で、より全国的な視点で創造都市を推進していこうという事だが、現在の流れとして2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、様々な文化的なプログラムが全国展開されている。この中で四国全域において香川県だけでなく広

## 審議経過及び審議結果

域的なネットワークの構築という面で、創造都市ネットワーク日本の中でも役割を果たしていただけるとありがたい。

### 【委員】

パラリンピックに関しては、今、芸術士のメンバーでお迎えの横断幕を作ろうという事で作業をしている。今度、屋島のスカイウェイに関しては、メンバーで道の清掃をしようとしている。この前の大雨もありゴミが落ちているので少しずつそういったことに取り組んでいきたいと考えている。

このビジョンの推進とこの審議会の在り方について思うことがあり、芸術士の活動は9、10年続いているが、役所の事業は3年から4年のタームで終了するものがいつもある。その後のことをフォローしたい、この事業はどのように育っていくのかと思っていても3年で終わってしまったものがいくつかある。実際はその事業の遺伝子のようなものが、違う事業に引き継がれているのかもしれないが、3～5年で終わるのではなく、10年ぐらいしっかりと政策として長く続けていくような取組もほしい。

### 【会長】

具体的に何か例示はできるのか。

### 【委員】

資料2の「完了」・「休止」になっている事業の中でいくつかある。予算や人のこともあるので仕方のない面もあるとは思いますが。

### 【会長】

事務局の中では、この「完了」や「休止」の判断について、何か一定の基準があるのか。

### 【事務局】

基本的には中長期的に、現在第6次となっている「高松市総合計画」の8年間の中で、どういう政策・施策・事業をやっていくのかという具体的な戦略計画として3年間の「まちづくり戦略計画」がある。基本的には「まちづくり戦略計画」の3年間の中で、「高松市総合計画」に掲げたものを実現するための施策・事業を各局各課から重点的な施策を出している。その3年間の成果等を検証した上で、目標を達成したものについては「完了」となり、新たな事業や施策に引き継がれていく。3～5年で全ての事業を一旦、終了させるという方針ではなく、「まちづくり戦略計画」の3年の中で見直していくというものである。

### 【会長】

ありがとうございます。

### 【委員】

資料に目を通して、市のまちづくりについて色々な分野や部署で横の連携をとろうとしているように感じられた。今、国の政策として外国から多くの観光客を

獲得しようとしているが、それによって高松の地域の良さを壊してほしくない。昔の京都は好きだったが、今では行きたいと思わない。高松に住んでいる人にとっての良さを見極め、育てていくことが、国内外の観光客にとって魅かれるところではないか。

【委員】

高松盆栽の郷づくりに関する資料を目にした際に、盆栽のセンターを新しく作られるという事だが、埼玉と違って、高松の盆栽だけでは盆栽センターとしては難しいと思われる。今、海外では盆栽より植木の方が高値で取引されている。高松にある盆栽を売るのではなく、高松にある盆栽に如何に価値を生み出すかが重要だと考えている。本当に手入れされた盆栽を厳選することに加えて、高松の盆栽を中心に中四国の盆栽や植木が集まるセンターになれば、海外や国内からも人が集まるのではないか。高松の盆栽は大量生産型なので現在、価値を落とし始めているとの話を聞くため、そういった視野を持たれると良いのではないか。

【会長】

要するに、大量生産型でなく、一点ものに近い工芸型の盆栽の方が価値を維持できるのではないかということだと思われるが、これはぜひテーマとして考えていただきたい。

【委員】

売る仕組みよりも見に来させる仕組みづくりを。

【委員】

第2次ビジョンのイメージイラストだが、むれ源平石あかりロードの実施場所が描画エリアから見事に外れている。それと、屋島スカイウェイでは自転車でも通行可能とのことだが、自転車でも簡単に時速60kmほど出てしまうと思われるが、なんらかの運用の規定は考えておられるのか。あと、市としても予算の限りがあると思うが、出来るだけ市の広報能力を民間に開放してほしい。例えば、どこかの会社が新製品を作った際に、割と難しいことを考えずに、1階のロビー等でちょっと見せるためのスペースを与えてやると民間としてもありがたい。最後に、全部とは言わないが市の対応がお役所対応である。この判断の根拠が何か見当がつかない場合がある。税金も必要であり、地場産業も必要で、その一体となって高松市という機構かと考えているので、そのエネルギーを供給するための高松市としての構えというのをもうちょっと深く考えていただけると嬉しい。

【会長】

これについては、あとでまとめてお答えいただきたい。

【委員】

資料1・2を見ると障がい者スポーツに力を入れてくださっているように感じる。今年から「日本体育協会」の名称が「日本スポーツ協会」に変更され、香川県でも「香川県スポーツ協会」に名前が変わった。「日本スポーツ協会」では、「日本障がい者スポーツ協会」と連携して、地域レベルでの障がい者スポーツを

普及していこうと取り組んでいる。高松市でも力を入れて取り組んでいるのは非常にうれしい。一点だけ気になるのは、2020東京オリパラのあとに高松市として何を残していくのかというレガシーの部分。資料を見る限り、障がい者スポーツの普及・啓発が一つと共生社会・バリアフリーの実現が一つと二つが目的として上がっているが、どちらに軸を置いているのか。障がい者スポーツというコンテンツを残したいのか、本当の意味で共生社会、心のバリアフリーを目指しているのか。現在、障がい者スポーツ体験等のイベントが小学校で行われているが、全国的では一過性の体験イベントに終わっているケースが多い。東京2020オリパラの後は国・県・市ともにスポーツ関連の予算が厳しいことになるので、その視点をもって計画的に取り組んでいただきたい。

#### 【委員】

これまで2年間ほど関わらせていただき、高松市創造都市推進ビジョンについては、途中からの参加になっており、私は、町工場をされており文化でも芸術でもスポーツでもない人間でもあるが高松市民ではある。今回このビジョンの内容を改めて見たときに、反対するよう内容は一つもない。しかし、それがどうしたのかという形になってしまい、どうしても自分のことのように入ってこない。中小企業家同友会でもこの話をするとみんな同じ反応になる。自分は文化でも芸術でもない普通の町工場や木工所だと。40万の市民がいてもほとんどの人がそうじゃないか。私は一つ一つの事業にしても全く反対はしないが、市民のものにしていくと考えたときに2年前から一つも前進していない。今回いただいた資料では資料3の「愛着度など」の箇所で満足度等が80%を超えているのが、私の感覚とかけ離れているように感じている。この市民満足度調査というものは、どの範囲の方々に調査をした結果なのか。率直な疑問としてお聞きしたい。

今後もこの高松市創造都市推進ビジョンは第2次、第3次と進められていくと思うが、広がりというか多くの市民のものになっていくのだろうか不安なり疑問に感じる。全ての人がこのビジョンに関わっていくことは不可能だとは思いますが、多くの高松市民が、我が事のように捉えられていくような形の仕掛けなり仕組みなりを考えていくことは、絶対にしていかなければいけない。税金を使って取り組んでいることなので、一部の文化・芸術の方だけが満足すればよしと考えるのなら私は反対せざるを得ない。

#### 【会長】

他都市の取組として、浜松市では「みんなの浜松創造プロジェクト」という事業があり、100万円程度の規模で市民から毎年テーマを募集している。市民参加型・市民提案型の創造都市である。そういったことが計画に入ってくると広がりが出てくる。

#### 【委員】

資料の実績の数値はどのように計算しているのかが気になった点である。どの業界でも数字は大事な判断基準になりうるものである。一人単位まできっちり計測しろとは申しあげないが、事業の継続や終了をするにあたって、数字は大事なので、きっちりカウントしていただいて今後の計画等への参考としていただきたい。

もう一点は、高松市でもインバウンドに取り組まれているが、今後継続して増加していくかと思うとおそらくそうではないだろう。一回か二回は来たいまちではあるだろうが、私が思うには不便なまちではないだろうか。私も海外によく行くが、大きな違いとしてはネット環境や両替所、後はクレジットカードの利用。小さいうどん屋に置くべきとは思わないが、サービスエリアや道の駅では対応できるべき。両替所も数を増やしていき、ネット環境も整備する。観光客を増やしたいのなら、我々が海外に行って便利だと思うことを積極的に取り入れなければ乗り遅れてしまうのではないか。

#### 【委員】

今回のビジョンで一番良かったことは、「魅力にあふれ、人が輝く」の言葉が入ったこと。これにより目標が明確になり、ぜひとも、この「人が輝く」事が出来るような事業に取り組んでいく必要がある。私は2年半ほど前からボランティアで、建設業に関わる人を育成して企業に就職させる職人の育成事業に携わっている。県外からも数名ほど県内企業に就職して移住している。この取組が出来るのも高松市から廃校となった小学校を借りており、さらに地元から10名ほど収容できる寮を利用させていただいている。その点から、申しあげさせていただくと、ビジョンのイメージイラストに瀬戸内海は出ているが山間部はほとんどない。塩江の温泉は歴史があり、ジビエ料理も素晴らしい。こういった良さを見直していく。県外からの観光客は50万人ほどおり、塩江の温泉に7万人来ているが、宿泊は非公式だが2、3万人しかいない。せめて50万人の1割は泊まっていただく必要がある。ぜひ山間部に焦点を当てた創造都市に取り組んでいただきたい。さらに、資料には「もっともっと創造的プロジェクト！」に「山間部、島しょ部でのサテライト・オフィス」という事業があるが唯一、実施年度が「未定」となっている。高知にしても徳島にしても光ファイバーを引いてWi-Fi環境を整えると先端技術を持った企業がやってくる可能性も十分にある。

#### 【副会長】

今回、資料に目を通す中で、3つの点が気になった。1つ目は、他の委員からも御意見があったが、非常に産業の部分が抜け落ちている。文化と産業というのはあくまで両輪のように動いて行かないとモノが出来てこない。江戸時代では、文芸品なんかは、武家の力もあるがそれ以上に町民の力によっていいものを残している。今後はその辺りをもっと力を入れて、ビジョンの中に入れていただきたい。2つ目は、高松市が作るものは固すぎる。0さいからのコンサートという事業があるが、一高の音楽科の卒業生は音楽学校など専門学校に進むが、その子らが音楽を生かして働けるところが非常に少ない。県内に戻って音楽の先生になろうとしても欠員が出ないとなれないという現状である。予算上、ずっと雇うとなると厳しいと思うが、学生時代の夏休み期間などを生かしてアルバイトとして雇う。音楽のみでなく工芸でも話は同じ。もっとその人たちの感性を伸ばしてあげ、なおかつ子供たちの感性も上げていく。0才からのコンサートでは、昨年度の観客数は約600人という事だが、山間部等で行うと1,000人、2,000人ともっといろんな形で集まってくる。夏休み等の期間を生かして展開等々を含めて御検討いただきたい。最後は、行政として仕方がないと思うが大きな大会しか出ていない。屋島レクザムフィールドでは、全国の身障者の大会がある。高

松のヨットハーバーでは、全国中学校ヨット選手権大会が開催される。その他にもレースに参加していると思うのは、高松というまちは素晴らしいということ。高松のヨットハーバーは駅から歩いて5分程度のところにある。もう1回、高松の中で何が強みで何が弱みかを考える。あと、どんな小さな大会でもサポートしてあげることが大事ではないか。小さな大会でも、こういう風に運営すれば補助金が出るということを知ってもらい、小さい大会が増えることで創造都市にプラスになっていくのではないか。

【委員】

盆栽の郷構想に関する資料で、有識者が高松の人だけだったが、もし高松から全国に発信していくのなら、高松の人だけで考えるのではなく、専門家や実績のある人など、もっとグローバルにビジョンを出せばよいのではないか。

【会長】

では、事務局から今、お答えいただけるものにはお答えいただきたい。

【事務局】

各委員の皆さんからたくさんの素晴らしい御意見をいただいたところでございます。時間の関係上、総括を申しあげますと、いただいた御意見をしっかりと受け止め、生かせるものについては参考にしていきたい。個々の御意見については、御時間の関係上、全てお答えすることは難しい。

【会長】

それでは、それぞれの委員にフィードバックすることを必ずしてください。この質問についてはこのようにしますと。言いつばなし、聞きつばなしが一番よくない。

【事務局】

いただいた御意見を記録としてまとめた上で、それぞれの所管課から取りまとめたものを委員の皆様フィードバックさせていただく形をとりたい。

【会長】

誤解もあつたりするので、必要であれば個別の委員に直接説明するなど丁寧に対応していただきたい。

この後、U40委員からの報告があるので、会としてはここで一旦閉会させていただきます。

### 3 閉会